教育開発推進機構 NEWSLETTER

教育開発ニュース

VOL.12
NEWSLETTER

KOKUGAKUIN University 平成27年(2015)９月１日

目 次

- 巻頭特集 第３ステージを迎えた教育開発推進機構 新機構長・センター長挨拶
  - 教育開発推進機構長 柴﨑 和夫（人間開発学部教授）…… 2p
  - 教育開発センター長 柴﨑 和夫（人間開発学部教授）…… 3p
  - 共通教育センター長 大久保桂子（文学部教授）…… 3p
  - 学修支援センター長 東海林孝一（経済学部准教授）…… 4p
  - ランゲージ・ラーニング・センター(LLC)長 菅浩二（神道文化学部准教授）…… 4p
- シリーズ「大学授業最前線―教員の努力！学生のまなざし！(12)―」…… 5p
- Welcome to LLC!! 欢迎来到LLC!! …… 8p
- 名著探訪 ―高等教育、この１冊（第４回）…… 12p
- ベストティーチング賞!! 受賞者の表彰式を行いました …… 14p
- 教育開発推進機構彙報（平成27年１月１日～６月30日）…… 15p
- 学生スタッフ紹介…… 16p
- 啐啄同時（そったくどうじ） ―編集後記―…… 16p

國學院大學教育開発推進機構

第3ステージを迎えた教育開発推進機構
新機構長・センター長挨拶

教育開発推進機構長に就任して

教育開発推進機構長
柴﨑　和夫
（人間開発学部教授）

本年４月より、教育開発推進機構の機構長に就任した柴﨑です。教育開発推進機構として３代目の機構長となります。３代目というと、何やら財産を食いつぶす雰囲気も漂うと感じる方もおられる（いないか？）かもしれません。そんなことの無いよう、心して任を果たしたいと考えています。

その為には、というわけでも無いですが、やはり「初心を忘れずに」の精神と、また現状をしっかり見据えて本務を考えていく姿勢が欠かせない、と考えています。教育開発推進機構（以下機構と略す）設置の目的は、機構の規程第２条に「本機構は、『國學院大學21世紀研究教育計画』に基づき、本学の教育力向上と教養教育に関する調査・研究に取り組むとともに、全学並びに各学部における人材育成の支援を行うことを目的とする。」とあります。建学の精神である「神道精神」に基づいた國學院大學の教育はどのようなものであるか、学部・学科に囚われず考える。國學院大學らしい教育の確立（國學院ブランドの確立）と、それを支える教員自身の教育力を開発することを考え・実施する。まさに教育機関としての大学の能力向上を支援する機関として機構は存在している、と理解しています。また、頭脳（思考する）としての働きも期待されているわけなので、それには単なるアイデアの提示ではなく、データに基づく企画・提案が必要です。最近言われている教学IRの中核を担うことも、機構の重要な任務の一つです。以上の任務達成のために、機構には４つのセンターと１つのステーションが設置されています。教育開発センター、学修支援センター、共通教育センター、Language Learning Center（LLC）の４センターとボランティアステーション（学修支援センターの下に）です。

教育開発センターが担う一つの柱は、教員個人、教員集団、学部全体のFD支援で、國學院大学の教育力向上を目指すことです。もう一つの柱は教学IRということができます。これは昨年から教育開発センターの業務になった重要な業務です。大学でもPDCAというマネジメント手法が普通に取り入れられるようになりました。PDCAでは現状分析と達成評価のための基準作成が重要ですが、それにはしっかりしたデータ分析が欠かせません。これまでの施策の点検、新たな施策の実現性を考慮する上で、今後はしっかりした検証を行うことを原則とする体制づくりを支援したいと思います。

学修支援センターは、名前の通り、学生の学修をあらゆる場面で支援することを目指しています。成績不振に陥った学生へのアドヴァイス、学修方法の分からない学生に対する面談、障がいを持つ学生の授業聴講支援など、学生生活のあらゆる場面で学生の学びを支援する組織です。広義の意味で、学生の自律学修を支援する立場にあるということで、ボランティアステーションも学修支援センターの下に設置しています。ボランティアステーションは、学内外のボランティア（組織を含む）の紹介、仲介や、学内ワークスタディ（学内における様々な事業やそれに伴うイベント、あるいは授業・学生生活を支援するための補助的な業務にスタッフとして従事する活動）の情報発信を行っています。

共通教育センターは、本学の学士課程カリキュラムの中核となる、教養総合科目（全学共通科目）や資格課程取得カリキュラムの運営に責任をもつ組織です。初年次教育やリメディアル教育にも責任を負うことで、國學院らしい人材育成の要になるカリキュラム運営の中心組織です。

LLCは機構として新しい組織ですが、大学のグローバル化を進める上で不可欠の、外国語運用能力向上を支援する組織です。正課学修外で、学生の外国語自主学修の促進と、外国語力の向上の支援を目的に設置、運営しています。外国語を学ぶ意欲のある学生の要望に応えられるような企画設定や運営を心がけています。

機構は、國學院大學の「教育機関としての能力」向上を支援したと自負しています。今年度から新たな教員も参加し、強力な布陣になりました。センター間の連携は当然ですが、学内の各部署とも連携、協力しながら任務を遂行していく所存です。

教育開発センターの役割と業務

教育開発センター長　柴﨑　和夫

教育開発センターは、教育開発推進機構の４センターの一つです。既に機構長就任の挨拶でも述べた所ですが、機構の業務のなかで、教育開発センターは、「建学の精神」を具現化した教育の開発と、本学における組織的な教育力向上の促進を目的とした機関です。実際の業務としては、主として

1）学生のための教育支援に必要な学内外の各種情報の調査・分析・研究の実施と、それに基づいた
2）教員の教育能力伸張に資する研修や講演会の企画・実施、
3）授業評価や教育活動面における教員評価体制の整備、
4）教育設備等の改善、
5）SA（スチューデント・アシスタント）等、学生による

表紙の写真：７月７日 KOKUGAKUIN WASOU DAYにて笹に短冊をつける学生たち

授業運営支援に関すること、などの全学的な教育改善に関する業務や、

6）各学部におけるFD活動等の支援、さらに

7）機構全体のマネジメント業務にあたっています。

また、以上に加えて、本学における教育改善の遂行に必要となる公的資金等の申請及びマネジメントの支援、なども大事な業務の一つです。

機構が設置されて以来、センターの目的は大きくは変わっていません。しかしながら、実際にはこれまでしっかりとは取り組んでこなかった業務があるのは事実です。今年度からは新しい教員が戦力として加わったこともあり、新たな気持ちと発想で業務を見直しながら、積極的に業務の遂行を進めていきたいと考えています。

まずは、新たな業務となった教学IRについて、積極的に進めていきたいと考えています。データがすべてではないですが、データに基づかない計画や検証には説得生が欠けています。教員や職員の『感じ』は真実であることが多いと、個人的には考えています。しかしながら、可能な限り客観的なデータで裏付けを取ることが、課題発見と次の段階を考える上で大切なことは言うまでもないことです。単なる『感じ』とは、異なる結果が得られることもあるからです。

FDについても、一から考えることが必要だと考えています。だからこそ、時代の趨勢や大学の現況を考えながら、どのようなFDが、國學院大學の「個性を活かした」教育力向上に必要なのか、どのような事業、施策が有効か、ということを考えていきたいと思います。

FDで注意すべきは、やはり『独りよがり』にならないことだと考えます。なぜ、FDが必要か、大切か、そして有効であるか、を理解してもらいながら、FDを実施している教員が『得をする』施策を考えていきたいと思います。センターも、中心は機構専任の教職員で運営していきますが、センターが目的とする成果を得るためには大学全体の教職員の協力が不可欠です。そして、そのような体制を取れるよう、センターも努力していきたいと考えています。

共通教育センターの課題

共通教育センター長　大久保　桂子（文学部教授）

教育開発推進機構のなかで、共通教育センターはやや特異な役割を担っています。学修支援センターやLLCのように学生の支援にあたることはなく、また教育開発センターのように教員の教育力向上のための支援と研究にあたるわけでもありません。共通教育センターは、國學院大学の「共通教育」とみなされる分野を管理監督し、その運営を行うと規程に定められています。従来、この「共通教育」部分と各学部の専門科目をあわせて、教務部が事実上管理運営責任を担ってきましたが、昨年度に教務部の規程改正がおこなわれ、教務部と共通教育センターの責任範囲が明確になりました。

そこで、今年度の共通教育センターの第一の課題は、「共通教育」に関して、いわば第二の教務部とでもいうべき責任が課された以上、センターとしての機能を強化し、課された責任を十全に果たすことにあると考えています。そのためには、教務課と教育開発推進機構事務課との密接な連携協力と、共通教育センター委員会の審議機能の強化が不可欠です。年度初めの共通教育センター委員会において、この主題を今年度の第一の課題と位置づけました。また、学長の教学方針に掲げられた「基礎日本語の強化」という課題に対しては、共通教育センター委員会の下に「基礎日本語小委員会」を設け、この科目の充実に向けて検討を始めました。

第二の課題は、もっと根源的な性質のものです。本学の「共通教育」の主要部分である「教養総合」は、平成７年に設けられて以来、幾度かカリキュラムに手直しは加えられたものの、基本理念と構造はこの20年間、ほぼそのまま受け継がれてきました。いま改めて「教養総合」科目の実態を見ると、20年前の精神や教育目的がややもすれば見失われているように見受けられます。他大学はすでに、「教養」という言葉を共通教育から除いているところが大部分です。学生課程教育における共通教育の意義について、検証を怠ってきたといわざるをえず、これを機に、本学の学士課程教育における共通教育の意味と範囲について、抜本的な見直しを行うべきであると判断しました。事柄は、國學院大学のすべての学部の教育にも影響を与えるきわめて重大な問題であり、慎重に、しかし速やかに、この主題に取り組まなければなりません。教務部を中心に組織したワーキンググループを中心に、検討作業を進めており、今年度中に成案をまとめる予定です。平成28年度の準備作業を経て、平成29年度には、新たな共通教育の体系を施行したいと考えています。

学修支援センター長挨拶

学修支援センター長　東海林　孝一（経済学部准教授）

学修支援センターは多様な個性をもつ本学学生の学修支援と、学生生活を通じた社会人基礎力の修得促進を目的として設置されました。事業内容３つに集約できます。

１、学修相談とリメディアル教育

現在、学修支援センターは、月曜日から金曜日の10時～18

時まで、専任の職員が常駐する体制をとっており、事前のアポイントメントなしでも学生の修学相談に対応しています。今年度４月からは臨床心理士が週３日学修支援センター相談室に在室しており、学修が困難な理由にメンタルな問題がある場合には、学生相談室と連携して相談にも応じております。

２、障害のある学生への学修支援

大学には、身体的、メンタルに何らかのハンディキャップを抱える学生も在籍しております。このようなハンディキャップを持つ学生が履修する講義・授業の担当教員への配慮願い、板書のノートテイク等の支援、その他対象となる学生と面談のうえ希望を聞きながら支援をしております。

３、ボランティアステーション

平成26年10月、学修支援センター内にボランティアステーションが開設されました。

ボランティアステーションの事業内容は①國學院大學が企画・運営するボランティア活動への支援、②学外団体から依頼されるボランティア情報の発信、③学内ワークスタディ情報の発信です。学内ワークスタディとは、学生が、大学内における様々な事業やそれに伴うイベント、あるいは授業・学生生活を支援するための補助的な業務にスタッフとして従事する活動のことです。現在國學院大學には、聴覚障害のある学生のために講義内容の要約筆記を行のノートテイカー、大人数講義担当教員の授業運営に対する支援をしているＳＡ、主に新入生に対して履修についての基礎的なアドバイスやサポートをするエルダーサポーターなどがおります。

学外団体から依頼されるボランティア情報も増えてきており、各種ボランティア活動に参加することによって、國學院大學が目標とする“特性の涵養”の一助になればと願っております。

ランゲージ・ラーニング・センター挨拶

ランゲージ・ラーニング・センター（LLC）長
菅　浩二（神道文化学部准教授）

英語および中国語について正課外からの学修支援を行うランゲージ・ラーニング・センターは、本年度で２年目を迎えた。

現在の業務としては、まず個々の学生の目的や技量に適応した学修方法・計画についての、LLC教員によるコンサルティングがある。そして学生の自主学修の機会提供として、eラーニングシステム「Net Academy 2」の登録・利用促進、TOEIC・HSK等の語学標準テストに向けたワークショップやガイダンス等の企画開催、およびTOEIC-IP・TOEFL-ITPの学内開催、留学事前学習やキャリア形成のための各種語学講座「★LLCプラス・シリーズ」運営、中国語に親しむ「チャイニーズ・コーナー（漢語角）」運営、などを行っている。

また26年10月よりたまプラーザキャンパスに、自習用コンピュータや参考図書・DVD等を備えた「LLC YOKOHAMA OFFICE」が設置され、主に人間開発学部生および他学部１年次生らの学修や相談等の場として稼働している。学生数の多い渋谷キャンパスでもこうした設備の整備が待たれるが、現在は本27年４月に設置された教育開発推進機構事務課室の一角において、上記諸活動の広報や、学修に関する相談、参考図書案内などが行われている。

浅学の身でありながら本年度よりセンター長を務めることとなった私が、今改めて思い起こすのは、数年前の短期語学留学の引率の際に、一人の参加学生が語った言葉である。

「僕は日本の事も深く勉強したかったし、そして外国語や世界の事も広く学びたかったからこの大学を選びました。やる気さえあればもっと、そういう勉強ができる仕組みが欲しいです」

学内に彼のような学生たちの声、そして外には今や日本のあらゆる教育機関に課せられているグローバル化への対応、社会が大学に求めるグローバル人材の育成、といった内外の要請に応えて、本学でも様々な改革が進められている。LLCの設置は当にその一環であり、それはまた国際交流推進部が進めるグローバルな人材育成や研究教育の展開を、基壇の一部分から下支えすることにもつながらねばならない。

外国語自主学修の成果の如何は、ひとえに学修者自身の「やる気」にかかっている。彼のように「やる気」ある学生が、自分の力を伸ばして行く正課外の効率的仕組みを工夫し運営することは、もちろんLLCが真正面から取り組むべき仕事である。それと共に必要なのは、外国語を学んで自己の生の幅が拡がる事を、一人でも多くの学生が知ってくれるように、学生一般の外国語学修への関心を高める努力であろう。

「やる気」自体の向上につながる活動のあり方をも、LLCでは検討していきたい。昨年実施された学生アンケートでも、本学には外国語学修に拒否感のある学生が多いことが示されている。「外国語などできなくても生きていける」との声もあった。それも可能だが、こんにちの世界でいささか寂しくはないか。

語学への苦手意識の壁を自ら破って社会に巣立つ卒業生を、一人でも増やしたい。かつてその種の苦手意識と戦った結果、視野を大きく拡げた経験ある身としても、切に望むものである。LLCの活動に、各方面のご支援ご教導をお願い申し上げたい。

シリーズ

大学授業最前線

― 教員の努力！ 学生のまなざし！(12) ―

人間開発学部には、初年次教育科目として「導入基礎演習」が置かれています。これは、ルーム制という少人数ゼミを核として、大学における学修に必要な知識・技術を学ぶ授業として位置づけられています。今回ご紹介する「子ども支援学科」での取り組みは、保育の中心を為す「遊び」を取り入れた初年次教育実践の記録です。この実践は、「遊び」を実際に自分たちで体験し、その経験を振り返り記述することを通じて子どもの視点から遊びに対する理解を深めるだけでなく、そうした学びを通じてよりよい遊びを援助できるような保育者になることを目的としたものです。学部学科の特色を活かした初年次教育のありかたについて、子ども支援学科の先生方が協力してアイディアを出し合って構想された授業の様子をご覧ください。

「保育内容（環境）」

教員の授業努力

夏秋　英房
（人間開発学部教授）

人間開発学部子ども支援学科は、子育て支援をめぐる国家的な制度的改編のさなか、平成25年に呱々の声を上げた新しい学科である。時代の要請に応えながら、いかに質の高い保育者（幼稚園教諭と保育士）を養成していくか、実践的に試行錯誤しながら歩みを進めているところである。学科発足２年目の取り組みを紹介したい。

そこで、「子どもの視点にたって子どもと共に遊びを援助できる保育者の養成～遊び体験を取り入れた初年次教育の試み～」というテーマで平成26年度國學院大學「特色ある教育研究」より助成を受けて実践研究に取り組んだ。共同研究者は石川清明、結城孝治、山瀬範子、夏秋英房の４名であるが、研究の実施にあたっては、子ども支援学科全教員の協力を得て、学科打ち合わせ会やFD研修会などで議論を繰り返しながら取り組んだ。

保育者は、幼児にとって遊びの支援者でありまた遊びのモデルでもある。しかし、学生の遊び体験には大きな差がある。そこで、初年次から幼児の遊びを体験することで学生は､多様な遊び文化と技能を習得するとともに、遊ぶ幼児の内面を理解し言葉で表現しようとする態度と、保育を省察し構想する力の基礎を養うことができるのではないか。このような視点から、研究を企画した。

一方、人間開発学部は10名前後の学生に１人の教員で「ルーム」を構成し、１年生はこのルーム担当教員から学生生活への支援を受けつつ、導入基礎演習という前期科目によってアカデミック・スキルズを学んでいく。また９月には総合講座という科目で３泊４日の集団宿泊研修を実施している。今回の教育研究では、このルーム制と初年次教育の一連の科目をとおして遊びに関わるプログラムを実施し、その経験を言語的に表現し対話し記述することを学生に求めていった。

具体的には、保育場面でなじみのある４つの遊び（室内遊び、運動遊び、積み木遊び、段ボール遊び）をそれぞれ40分間ずつ体験した。遊びの展開は学生たちの自由に任せ、教師は介入しなかった。体験した後すぐに体験内容を振り返り、記述することを求めた。

さらに、身近な生活環境における自然遊びとその理念（シェアリング・ネイチャー）についての講習を６月に

▲シェアリング・ネイチャー講習

実施した。ネイチャーゲームをつうじてキャンパス内の自然に触れながら、自然と子どもをつなぐつなぎ手としての保育者の役割と資質について学んだ。９月の総合講座では、前期の遊び体験を振り返り、富士山麓の樹海のなかでネイチャーゲームを再度体験した。

これらの科目をとおして学生の振り返り記述の分量や形式と内容を分析し、また数回にわたるアンケートを実施して、学生の幼児期の遊び体験や入学動機、保育職への志向を把握しそれらの関連について分析した。これらを踏まえ、教員は10月の教員のFD研修会で導入基礎演習などの初年次教育の在り方をめぐり意見を交換した。

また学生は、導入基礎演習のまとめとして、遊びに関わるレポートと発表資料を作成した。さらに10月には、任意参加ではあるが、地域と連携した「共育フェスティバル」において幼児を対象とした活動プログラムを教師の支援を受けながら学生が企画・実施した。

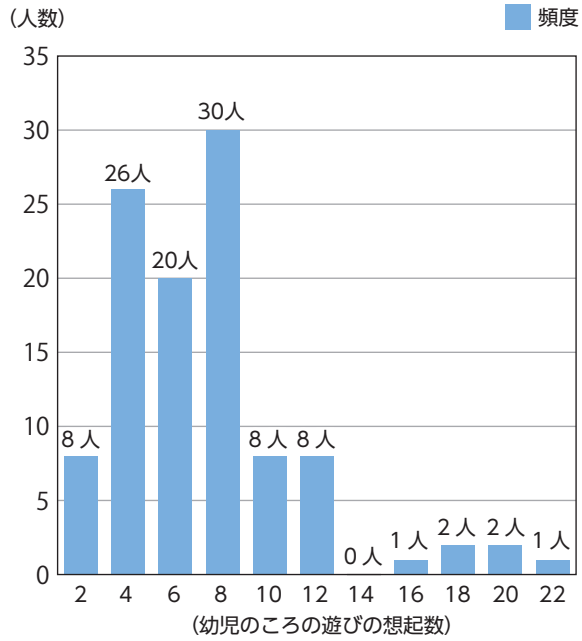
研究の成果としては、遊び体験と振り返り記述を繰り

▲積み木遊び

▲段ボール遊び

▲2014年度共育フェスティバルにて

返すことにより、学生は視点を整理し要点を簡潔にまとめる記述力が向上するとともに、幼児の遊びを想定したり保育者の視点を持って活動をおこなったりまとめたりするようになった。また、一連の活動をつうじて教員は個々の学生を理解したり、個別の指導が必要な学生を把握したりすることができた。一方で、アカデミック・ラーニングと体験学習の両立や、ルームの教員と学生の関わりの形成、実践と研究の両立、学生の主体的な学びの実現などの課題も明らかになった。これらの成果と課題を踏まえ、平成27年度の初年次教育が実施されている。



▲学生が想起できる幼児期に体験した遊びの数は、差が大きい

受講学生からのコメント

室内遊びの振りかえりから

ルームで「なんでもバスケット」をやったときは、同じ子が何度も鬼をやったりしたが、どんどんお題が出てくるので終始楽しかったです。…知らない遊びを提案されたときは、知っている人が必死に教えてくれたので、ぎこちないながらもみんなで楽しみながらやることができました。

違うルームの人はほとんど知らないのですが、やっていくうちに自然に話せたりしたので、小さい子は遊びながら人との関わりを学び、輪を広げていくんだなと実感しました。

導入基礎演習のまとめのリポートから、運動系の遊びについて

私たちの年齢でドッジボールをすると、みんなにボールがまわるように配慮があるため、だれもが楽しめる楽しい遊びだと思った。

しかし、子どもは基本的にはそのような配慮をしないため、保育者が全員が楽しめているかを注意して見る必要がある遊びだと思う。苦手な子にとっては、「ボールが当たると痛い」「逃げ回るだけ」であまり楽しいとは思わない遊びである。全員が楽しめるようにするためには、ドッジボールのルールや場を工夫すると良いと思う。

導入基礎演習のまとめのリポートから、全体をとおして

- 普段の生活ではなかなか体験する機会がない子どもの頃にしたことのある遊びをすることによって、子どものように無邪気に遊ぶことができる。→　**ただ、勉強をしているだけでは分からないことが見えてくる。**（遊んでいるときの子どもの気持ちなど）
- 最初はあまり乗り気じゃなくても、遊んでいくうちに気づくと夢中になり楽しんでいる。→　子どもが乗り気じゃなくても、一回一緒に遊んでみれば楽しくて夢中になって遊ぶ、ということがあると思う。**最初のきっかけをどうやってつくってあげるか、ということが大切。**でも何でもかんでもやらせればいいというわけではなく、**子どもがやりたいと思う気持ちを尊重することが大切。**

Welcome to LLC

LLC(ランゲージ・ラーニング・センター)紹介

ランゲージ・ラーニング・センター（LLC）は課外での外国語自主学修を支援する組織です。授業だけでは物足りない、もっと外国語ができるようになりたい、将来外国語を使った仕事につきたい等、自主学修の動機は様々でしょう。このような、学生の皆さんの「もっと外国語を勉強したい」という気持ちに応えることを目的としているのが、LLCです。では、LLCで具体的に何ができるのか、以下にご紹介していきます。

LLC YOKOHAMA OFFICEでの英語学修支援の紹介

LLC YOKOHAMA OFFICEは、緑の美しい、たまプラーザ・キャンパス１号館304教室に昨年11月にオープンしました。ここでは、主に英語を中心とした外国語の学修支援を行っています。LLCとは、“a place for communication, a place for trial and error”―英語でコミュニケーションできる場所、英語のトライアルとエラーを繰り返せる場所―をコンセプトにしています。語学の習得には知識を学ぶだけでなく、それを使って応用練習をしたり、実際に書く、話すなどして試用してみる、ということが必要になってきます。そうした、一斉授業では対応が困難な学修の側面をサポートするために、LLCは生まれたのです。英語教育専門の教員と、やさしいスタッフが英語の自主学修のサポートをしています。

● 英語でコミュニケーション

英語でコミュニケーションしてみたい、自分の意見を英語で言えるようになりたい、と多くの学生は思っています。

LLC YOKOHAMA OFFICEに入るとすぐに、二つ連結した大きな丸テーブルがあります。ここは、自主的な英語学修を行おうとする学生が集い、コミュニケーションを図る場所です。木曜日午後に、自然発生的に出来たグループで英会話の練習をおこなったり、LLCにある英語の辞書を使用して勉強するグループが居たりしています。ワイドスクリーンのディスプレーも設置されており、空き時間を利用して友人同士で英語字幕付きで「ミッション・インポッシブル」を見る人たちもいます。今後は、プレゼンテーション・ワークショップなども開催できたらと考えています。

英語学修支援

ここでは、LLCでの英語学修支援について説明します。

LLCでは、國學院大學の学生が、英語力を身につけて社会に羽ばたいて行けるよう、英語検定試験の実施、勉強方法の提案、コミュニケーション力の向上のためのワークショップ、留学のための英語力強化など、様々な面から自主的な英語学修をサポートしています。中でも、たまプラーザキャンパスに昨年の秋にオープンしたLLC　YOKOHAMA OFFICEは、英語自主学修の拠点として、学生に利用されています。

!! 欢迎来到LLC!!

● 英語学修のためのリソース

LLCには、様々な英語のリソースが揃っています。その中には、Graded Readersのような易しい英語の絵本をはじめ、豊富な語彙を収録した英和・和英・英英の各種辞書、英語の勉強法やスキル・トレーニングに関する書籍、TOEIC®やTOEFL®など検定試験の問題集、英字新聞、映画のDVDやリスニング用CDなどが含まれます。また、今更人に聞けないけれど、英文法をもう一度やり直したい、という人のためにグラマー・ブックも備えています。英語の授業で使用するDVDを借りにいらっしゃる先生もおられます。英語の本や雑誌を読んだり、英語のビデオを見たり、英会話やプレゼンテーションの練習を行ったりすることができます。

● コンピューター・ブース

LLCの一番奥には、自由に使えるコンピューター・ブースが８席あります。ここでは、インターネットを使ってオンライン学習ツールNetAcademy２ による語学学修をはじめとして、英語のウェブサイトの閲覧、Weblioのようなオンライン辞書の使用、などを行うことができます。また、マイク付のヘッドフォンも貸し出しているため、英語の映画DVDを視聴したり、テストや問題集のCD教材を使ってリスニング力を鍛えるなど、様々な使用法が可能です。特に、一台のPCには、TOEFL iBTのインタラクティブな（リーディング、リスニング、スピーキングが一緒になった高難易度の）問題のCDがインストールされているので、本番に近い形で練習ができます。

● 英語学修相談：自己プランニング

英語の学習に関する様々な悩みに対応するため、LLCでは専門教員による「英語学修相談」を受け付けています。例えば…

- TOEICやTOEFL、などの試験勉強の仕方がわからない
- 自分なりに更に進んだ英語学修がしたい
- 英語の自主学修の仕方に不安がある
- 留学に向けて自主的に勉強したいがどうしたらいいの？

などの相談が寄せられています。更に今年度からは一歩進めて、学生自身が学修のプランを考える、アドバイザリー・カードを導入しました。各自が自分の現在の英語力を自己評価した上で、大学生活４年間の残りの期間で英語力の習得に関して何ができるか、その後にある自分の目標は何なのか、を明確にして計画を立ててもらうようにしています。アドバイザリー・カードの目的は、学生自身が、自分の学修習慣や成果を振り返って頭の中を整理し、自ら学ぶ姿勢を構築する、言わばself-management（自己管理）能力をつけることです。ですから、学生はいつでも又LLCを訪れる時に、アドバイザリー・カードを取り出して、自分の目標を確認したり、最近の学修状況に基づいて書き直しや書き加えを行ったりできます。相談者の中には、「話しているうちに、考えが整理できて、自分のすべき事が見えて来た」という人も少なくありません。すぐに手を差し出すのでなく、できるだけ自己解決力を引き出す、というのがLLC流のアドバイジングです。落ち着いて相談を行うために、LLCウェブサイトの予約システム又は電話で日時を予約する、又はLLC YOKOHAMA OFFICE、教育開発推進機構事務課（３号館3306）に直接、来室してください。

● オンライン学修ツール、Netacademy 2

今や、学校、企業、社会の色々な機関で、e-ラーニングは忙しい人々の頼もしい味方です。インターネットを使って行うオンライン学習NetAcademy 2 は、LLCが提供する、便利な学修ツールです。英語のリーディング、ライティング、TOEIC問題、語彙のクイズ、英文法、そして初級中国語までが、初期登録料千円のみで、卒業まで使え、オンラインのパソコンがあれば、いつでもどこでも、自分に合った速度やレベルで学修がはじめられます。しかし、一人だけで勉強を続けるのは孤独感に陥りやすいので、週に何度かLLC YOKOHAMA OFFICEに来て、1回30分でもよいのでLLC YOKOHAMA OFFICEのパソコンでNetacademy 2 を学修し、自修のペースを作ることをお勧めしています。モチベーションを維持して学修が持続できるよう、英語教員やスタッフが、サポートします。

LLCにおけるその他の英語学修支援

LLCでは、その他にもいろいろと、英語の自主学修を支援しています。学内TOEIC試験は年間6回も実施され、今年から新たに、たまキャンパスでも年3回の試験がおこなわれています。またそうした受験をサポートするために、渋谷キャンパスでは無料の初心者用TOEICワークショップ（勉強会）、TOEICテスト配信会社によるガイダンス、一日ワークショップなども開催しています。更に、本学では希少なネイティブ・スピーカーとの会話機会を提供する為、LLCプラスという枠組みで、ネイティブ講師による有料の英会話講座や留学前研修をおこなっています。アクティベイト・イングリッシュT（短期留学用）およびS（セメスター留学用）というコースは、本年度は、一般学生も希望すれば受講が可能です。

LLC YOKOHAMA OFFICE 利用学生からの声

TOEICスコア、大幅にアップしました！

（外国語文化学科　3年/ Y.S.さん）

私は、学修相談で何回かLLCを利用しています。TOEICの勉強方法がまったくわからなかったので相談に行ったのですが、とても親身になって話を聞いてくださいました。一緒に勉強の計画を立て、毎回アドバイスをもらいました。そのおかげで、3ヶ月ほどでTOEICスコアが大幅にアップしました！英語の勉強に関しては不安なことだらけなので、LLCのような場所があることは、とてもありがたいです。

自分の英語力を磨ける

（初等教育学科　2年/H.K.さん）

普段、大学生活をおくる中では、英語と関わることは意外と少ないのですが、たまキャンパスのLLC YOKOHAMA OFFICEには、英語を学修する環境が整っています。大学受験のときに身に着けた英語力を、そのまま失ってしまうことほど、もったいないことはない。スピーキングの練習も、TOEICなどで必要な文法力も、LLCで磨くことができます。

英語が少しわかるようになった

（健康体育学科　1年/M.K.さん）

英文の和訳や意味がいまいちよくわからなかったのですが、LLCの先生に質問すると丁寧に教えていただき、とてもよかったです。LLCで勉強していたら、少しずつですが、英語の長文を読んだり、英作文をしたりできるようになってきました。また、ちゃんと自分で予習する習慣ができたので、以前より授業が辛くなくなりました。1対1で質問できるので、ぜひ、利用することをお勧めします。

パソコンでリスニング練習

（健康体育学科　4年/H.O.さん）

LLCでは、パソコンを使い、リスニングの練習をすることができます。また、TOEICをはじめ、教材がとても充実しているので、英語の力を着実に伸ばすことができます。

学内で唯一TOEFLの学修ができる場所

（外国語文化学科　4年/ Y.S.さん）

私はアメリカの大学院を受験しようと考えています。その際に必要なTOEFL iBTテストのスコアを獲得するためLLCに通っています。LLCではTOEFL iBT問題をインストールしたPCを自由に使用できるので、PC受験方式のiBTの勉強をするのに最適な場所です。英語担当の先生がいらっしゃるので、すぐに質問でき、TOEFLの英語ライティングをチェックして頂く時もあります。

中国語学修支援

LLCでは、英語だけではなく中国語の自主学修支援も行っています。日本と中国は一衣帯水で、両国は長きに渉って様々な形で関わり合ってきました。中国が経済成長を経た現在では、中国や中国語に関心がない人でも、将来中国語を勉強せざるを得ない状態になることも考えられます。日本の企業に就職したはずなのに中国企業に買収された、国内市場だけでは会社が続かないので中国展開を考えた等、将来生じるかもしれない中国語習得の必要性に備え、学生のうちに自主学修の習慣をつけておくことは無駄ではありません。

● オンライン学修ツール、Netacademy 2

初級から中級（中国３級レベル）に対応した、中国語コースが利用可能です。視聴覚を刺激しながら、自分の好きな時間に自分のペースでできるのがオンライン学修の特色です。

● LLCチャイニーズ・コーナー（漢語角）

学部に在籍している中国語圏からの留学生と、中国語会話を楽しむ場です。現在は、週１回開催しています。中国語で積極的に会話をする留学経験者も、日本語を交えて会話をする初級レベルの１年生も参加しています。授業で習った例文を使って会話練習をすることもできますし、同時代の新語や若者言葉を知ることができるのも、相手が同世代の留学生ならではです。

ちなみに、「漢語角」は中国語ですが、台湾では使わない言葉だと、台湾からの留学生が言っていました。

★LLCプラス・シリーズ
中国語圏留学用講座

本学協定校への夏期・春期短期留学、セメスター留学参加者を主な対象とする講座です。留学先は年度によって変更になることもありますが、現在は南台科技大学（台湾）と復旦大学（上海）への留学制度があります。現地での授業や生活に対応できるように事前に日常会話や教室用語などを学びます。セメスター留学用講座は中国語で行われ、最初は戸惑っていた学生も、次第に耳が慣れて講師の言っている中国語が聞き取れるようになってきます。

★この他に、中国語担当教員による学修相談も行っています（要予約）。今後は中国語検定等の検定試験に関する取り組みも進める予定です。

LLC YOKOHAMA OFFICE　たまプラーザキャンパス１号館　304教室

●**開室時間**…月・火・木・金曜日（10:00～18:00）祝日、大学休業日、長期休暇を除く
渋谷キャンパス・教育開発推進機構３号館　3306

●英語学修相談　**利用時間**…LLC YOKOHAMA OFFICE（月・木曜日10:00 ～ 17:00 ）渋谷 学修支援センター ボランテイアステーション内（随時 ）

●中国語学修相談　**利用相談**…渋谷 学修支援センター　ボランテイアステーション内（月・木 ）

●NetAcademy２利用…登録料千円ですべてのコンテンツが在学中ずっと可能

●http://www.kokugakuin.ac.jp/iatl/edu001.html

名著探訪

— 高等教育、この１冊 —（第４回）

本機構の教員が、自身の日々の教育活動や高等教育研究を進める上で役に立ったもの、これは読んでおいた方がいいと思うものなど、その琴線に触れた１冊を紹介するコーナーです。

本学、中川先生がすべてを語る、教育関係者必読の一冊。

『法学部は甦る！上―初年次教育の改革』
中川孝博著『法学部は甦る！上―初年次教育の改革』
2014年11月　現代人文社

●法学部facebookページ
https://www.facebook.com/kokugakuinlaw

●国学院大學法学部facebookページ主要記事へのリンク集
http://www.kokugakuin.ac.jp/law/facebook_link.html

書　籍　紹　介

はじめに一言。本書は未完である。予定されている「下」の刊行でもって、法学部復活の道筋が示されるようだ。しかし物事は一朝一夕には好転しない。とりわけ「先駆者」には特有の困難がまっている。本書には法学部復活を期する著者の、学士課程教育における奮闘が赤裸々につづられている。

本書の構成はいたってシンプル。冒頭のはしがきを除けば全６章構成で、著者が担当する初年次セミナーと実定法初級科目それぞれの、教育目標、授業実践記録、学習成果の実態が記されている。この記述は、読者によっては驚くかもしれない。というのも著者が自身の授業内容のすべてをさらけ出しているからである。授業時間外における学生とのメールのやり取りまで(もちろん、問題のない範囲で)明らかにしていて、読者は著者が実施する授業の全容、そして空間の雰囲気を体感できるのではないだろうか。

だが評者としては、冒頭のはしがきの一読を強く勧めたい。専門を問わず一人でも多くの大学教員に一読してもらいたいと思う。なぜなら社会一般が法学部に持ち続けてきた幻想を批判的に検討し、ユニバーサル化する現代の高等教育で求められる学士課程教育としての法学部教育の在り方を、きわめてクリアに表明しているからだ。そのあり方すなわち方針の実践記が前段で紹介した部分であり、読者は著者がその方針を貫いているのか否かを、実践記で検証することができるのである。評者は同じ大学で同じ教育研究職にあるが、多方面からの批判を厭わない著者の姿勢に敬意を表したいと思う。これだけ晒しだしたのである。「下」を刊行され、法学部が甦る道筋を見てみたい。　　(戸村)

『学校の挑戦――学びの共同体を創る』
佐藤学『学校の挑戦――学びの共同体を創る』小学館、2006年。

より深い学びを実現するためにはどうしたらよいのか。こうした問いに対して、その理念のあり方について一つの解を提示しているのがこの本である。本書は、初等・中等教育に関する本ではあるが、高等教育の授業のあり方についてもたくさんの示唆を与えてくれるものである。昨今大学では授業改革の必要性が叫ばれ、アクティヴ・ラーニングなど学生の自主的・主体的な学修を促すための様々な試みがなされており、関連する書籍も相次いで出版されている。そんななか、あえてここで本書を取り上げた理由は、この本がアクティヴ・ラーニング等の能動的・協同的な学びが必要とされる背景を、教育現場のナラティヴに即した詳細な観察を通じて、学ぶ場としての学校のあり方についての哲学的・思想的側面からの深い考察が行われているからである。

本書は三部構成をとる。第一部では協同的な学びの意義について、第二部では学校改革の事例報告について、第三部では校内研修のあり方についての提言がなされている。とりわけ第一部においては、学ぶことを構成する各アクター、すなわち主役としての子どもという学習者、教えるものとしての教師、そしてそれを取り巻く人々との関係性の捉え返しが「学びの共同体」を構築するプロセスのなかでなされている。学ぶ場としての「学校」を、公共性を帯びたものとして、そして民主主義を実現する場として捉え、そこでの主役である子どもの果たす役割と責任とを再評価し、教える－学ぶという従来の教育的関係性その構図の刷新を図っている。ともすれば方法論に偏りがちな昨今の高等教育におけるアクティヴ・ラーニング実践にたいして、本書はその理念の観点から見直すための一助となるであろう。　　(佐藤)

ベストティーチング賞!!
受賞者の表彰式を行ないました

ベストティーチング賞は、兼任講師で授業評価アンケート上位者5名に表彰したもので、
今回は特に2名の先生から受賞した感想と授業をする上での心構えを教えていただきました。

受賞式後、赤井学長と懇談

教養総合科目「スポーツ・身体文化Ⅱ」
本学兼任講師　椿原　徹也 先生

このたびは、26年度ベストティーチング賞を頂き、誠にありがとうございます。教員として大変光栄に存じます。また、このような受賞の機会を頂きましたことは、國學院大學教職員の皆様のサポートや学生のおかげであると心より感謝いたしております。担当している授業は、２年生以上の体育実技でありますが、学部・学年・技術レベルは様々です。その中で、一番心がけている点は、みんなで楽しい授業を作るということです。そのため、ルールを工夫し、雰囲気作りに努めています。

また、そういった中で豊かな人間性を磨くことができればと学生と常にコミュニケーションを図っております。今後も更に日々精進していきたいと思っておりますので何卒宜しくお願い致します。

※肩書きは平成26年度のものです。

神道文化学部「神道と武道」
本学兼任講師　稲葉　　稔 先生

文武修養の道

「神道と武道」とは何か、との設問をもって、文武両面からその基礎を学び、現代に己の武士道を探求して行く。

神道をわが国固有の守るべき文化。武道を国防、防衛と捉えれば、己の生きる現代日本の状況を理解出来る。あるいは暴力行為、事故にあった時、ストレスを受けた時と狭義に捉えて、体力、気力、知力を養成。さらには鎮魂、気鎮めに通ずる呼吸法を知れば、先人の武道観を理解出来て、己の武道を修養出来るだろう。

一コマの授業は、心身の修練の場と考えた。体育館の道場に、鹿島の武神、香取の武神の掛軸を掲げて、ひもろぎを立てて、魂を練る修練を続けて十二年。いかなる成果があったか。真剣を使った祓の太刀と剣術の演武。袈裟斬りを一人一人に教えた。特に、下腹丹田呼吸の実修が最も効果的だったのは、前後期の二回の感想文に顕著で、私自身の励みとなった。

教育開発推進機構彙報

（平成27年１月１日～６月30日）

※肩書きは等は当時のもの

会議

○**運営委員会**［平成26年度］第５回：２月17日
［平成27年度］第１回：４月22日

○**合同委員会**［平成27年度］第１回：４月８日

○**教育開発センター委員会**
［平成26年度］第７回：２月25日
［平成27年度］第１回：４月８日　第２回：５月20日
第３回：６月17日

○**共通教育センター委員会**
［平成26年度］第８回：１月29日 第９回：３月４日
［平成27年度］第１回：４月８日　第２回：４月22日
第３回：５月20日 第４回：６月17日

○**学修支援センター委員会**
［平成26年度］第８回：２月18日
［平成27年度］第１回：４月22日 第２回：５月20日
第３回：６月17日

○**ランゲージ・ラーニング・センター委員会**
［平成26年度］第８回：１月14日 第９回：２月16日
第10回：３月18日
［平成27年度］第１回：４月８日　第２回：５月20日
第３回：６月17日

○**機構専任教員協議会**
［平成26年度］第９回：１月21日 第10回：２月18日
第11回：３月11日
［平成27年度］第１回：４月15日 第２回：５月13日
第３回：６月10日

行事

［平成26年度］

○**講演会・シンポジウム**

２月21日：平成26年度教育開発シンポジウム
「教養教育における「建学の精神」の可能性－私立大学ならではの教育の実践－」
第１部・基調講演
「「建学の精神」と教育」講師　松坂　浩史氏
（文部科学省広報室長（文部科学広報官））
第２部・シンポジウム
「関西学院における理念の継承のありかた」田淵　結氏
（関西学院宗教総主事、関西学院大学教育学部教授）
「初年次教育における国語力養成の取り組み」小嶋　知善氏
（大正大学教育開発推進センター長、表現学部長）
「國學院大學の３つの慮いと教養教育のあゆみ」加藤　季夫氏
（國學院大學教育開発推進機構長、人間開発学部教授）
コメンテーター：寺﨑　昌男氏
（立教学院本部調査役、東京大学名誉教授）
司会：柴﨑　和夫（國學院大學教務部長、人間開発学部教授）

○**学生向けワークショップ・オリエンテーション**

１月19・21日：ボランティア初心者向け説明会開催
１月28日：学内ワークスタディ報告会並びに国際交流懇親会開催
２月16日：第1回バリアフリー体験会&バリアフリーマップ作り開催

［平成27年度］

○**学生向けワークショップ・オリエンテーション**

６月３・10・24日、７月１・８日：TOEIC®ワークショップ（TOEIC®&TOEFL®×LLC）（全５回・渋谷AMC　C3）
６月19・24日：TOEIC® 1 dayワークショップ（渋谷AMC　C3）

○**ボランティアステーション**

４月17日・20日：ボランティアガイダンス（渋谷3306教室）
６月17日：手話でランチトーク（渋谷3309教室）

研修会・打ち合わせ会等

［平成26年度］

１月19・21日：ボランティア初心者向け説明会
１月28日：学内ワークスタディ報告会並びに国際交流懇親会開催
２月６日：後期ノートテイク報告会
２月12日：後期SA最終報告会
２月16日：ボランティアステーション小委員会
２月21日：教育開発シンポジウム開催
３月９日：ボランティアステーション小委員会

［平成27年度］

４月11日：ノートテイク研修会
４月18日：SA研修会
４月29日：学部留学生LLCサポーター研修会
６月20日：SA中間報告会
６月27日：ノートテイク研修会

FD活動、教育支援

［平成26年度］**３月**：スプリングセッションSA運用
［平成27年度］**４月１日**：新任教員研修

出張等

［平成26年度］

１月14日：全国私立大学FD連携フォーラム第１回会員校ミーティング懇談会に参加（中山准教授、小濱助教・立命館大学東京キャンパス）
２月24日：シンポジウム「反転学習はディープ・アクティブラーニングを促すか？」に参加（中山准教授・関西大学千里キャンパス）
２月28日～３月１日：第20回FDフォーラム「学修支援を問う～何のために、何をどこまでやるべきか～」に参加（中山准教授<分科会報告>、新井准教授、小濱助教、鈴木助教・同志社大学）
３月５日：中山准教授：成蹊大学ＦＤ・ＳＤ講演会「教育現場でいま求められていること～ 2020年に向けてキーワードをよみとく～」に参加（中山准教授・成蹊大学）
３月９日:逢瀬いなか体験交流協議会「学生向け農家民宿ワークショップ」に参加（鈴木助教・品川区GOBLIN.&goost.）
３月13日：第10回龍谷大学ＦＤフォーラム2014「ラーニングコモンズを学びの空間として育てていくために」に参加（龍谷大学）、京都産業大学ラーニングコモンズ見学（鈴木助教・京都産業大学、龍谷大学）

3月18日：ベネッセコーポレーション主催「グローバル時代の大学改革セミナー～社会・大学・高校接続の観点からグローバル人材育成を考える～」に参加（中山准教授・フラクシア品川クリスタルタワー）
3月26日：CIEE教育者セミナーin東京「今だからこそ、学生を海外に～「体験型」プログラムとしての海外短期ボランティアの活用～」に参加（鈴木助教・アットビジネスセンター渋谷東口駅前）
[平成27年度]
5月15日：「教育の内部質保証：その基盤づくりと実際―教学IRをベースにした仕組みの構築と運用」に参加（戸村助教・お茶の水女子大学）
5月16日：Facultas第5回大学支援セミナー『初年次ライティング指導の実施とその評価』に参加（大津助教・名駅モリシタビル）
5月18日：「東北再生「私大ネット36」（平成27年度　第1回運営・幹事校会議）に参加（鈴木准教授・大正大学）
5月29日：「大学FD学修会2015」に参加（戸村助教・山王健保会館）
6月5日～7日：大学教育学会第37回大会に参加（中山准教授、小濱准教授、戸村助教・長崎大学文教キャンパス）
6月13日：全国私立大学FD連携フォーラム主催の総会及びパネルディスカッションに参加（中山准教授・戸村助教）
6月19日～20日：全国高等教育障害学生支援協議会第１回大会に参加（佐藤助教・東京大学駒場キャンパス）
6月20日：初年次教育実践交流会に参加（戸村助教・玉川大学）
6月23日：日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）遠隔情報保障事業　平成27年度第1回事業会議に参加（佐藤助教・オフィス東京）
6月27日～28日：日本高等教育学会第18回大会にて口頭発表（戸村助教・早稲田大学）

刊行物

[平成26年度]
2月：『平成25（2013）年度 授業評価アンケート分析報告書』発行
3月：『國學院大學 教育開発推進機構紀要』第6号発行
3月：『ボランティアステーションリーフレット』発行
3月：『LLCリーフレット』発行

学生スタッフ紹介

★SA（スチューデント・アシスタント）募集

教育開発推進機構では、大人数授業での教育効果の向上を目指して、SA（スチューデント・アシスタント）制度を実施しています。主な作業は教材の印刷や配布、出席カードの整理等です。学内で、空いている時間でできますので、必要なのは「やってみよう！」という前向きな姿勢だけです。SAとして活動し、大学生活をより充実させてみませんか？
[対象] ２年生～４年生
[募集期間] 後期：９月履修登録期間
※スチューデント・アシスタントは成績評価に関わる業務は行いません。

★ノートテイカー募集

教育開発推進機構では、聴覚障害のある学生のためにノートテイク（講義内容の要約筆記）をしてくれる意欲ある学生を募集しています。研修を行いますので、初心者でも大丈夫です。
[対象] ２年生以上
[勤務時間] １コマ90分（曜時不定）
※採用期間・給与等については募集時に学内に掲示します。

啐啄同時（そったくどうじ）
― 編集後記 ―

『教育開発ニュース』も12号目となります。今回、シリーズ「大学授業最前線―教員の努力！学生のまなざし！（12）―」では、緑の美しいたまプラーザをホーム・キャンパスとする人間開発学部の子ども支援学科の実践的な取り組みにスポットを当てました。実践的指導を通して、子どもの資質･能力を開発し、人間力を備えた人材を育むことのできる指導者の育成に力を入れる、楽しくて実際的な授業の様子をお届けできたことと思います。また今号では、同じくたまキャンパスに平成26年に誕生した、教育開発推進機構ランゲージ・ラーニング･センターの語学教育施設であるLLC YOKOHAMA OFICEも取材致しました。人口の少子高齢化やグローバリゼーションの波が押し寄せる中、日本の高等教育は「いかに教えるか」から「どう学ばせるか」への理念のパラダイム･シフトを迫られています。國學院大學においても、こうした実践的な学生主導型の“学び”の試みが行われており、これからも見守っていきたいと思います。（松岡）

教育開発推進機構NEWSLETTER『教育開発ニュース！』第12号　平成27年９月１日発行
発行人 柴﨑和夫　編集人 鈴木崇義・松岡弥生子・佐藤　靜・戸村　理
発行所 國學院大學教育開発推進機構　〒150-8440　東京都渋谷区東4-10-28